

—明るく、楽しく、美しい人生を演出するための40章—

生きる2

パフエトリバディー教団『愛』編集室編

芸術生活社

1	「常に意欲に燃えて」生きる	6
2	「家庭や職域を明るくして」生きる	12
3	「夫婦は一体」を中心に」生きる	18
4	「イメージや目的を達成する道に」生きる	24
5	「心」をつくりつつ」生きる	30
6	「情操豊かに」生きる	36
7	「新しい自分を発見する」喜びに」生きる	42
8	「偉そうな心」を戒めて」生きる	50
9	「自己中心」を戒めて」生きる	58
10	「感情に走る」ことを戒めて」生きる	64
11	「怠け心」を戒めて」生きる	70
12	「時間の無駄遣いを戒めて」生きる	76
13	「凝視不足」にならないように」生きる	82
14	「分相応」を心掛けて」生きる	88

- 15 「寛容な心」を培って」生きる
16 「他」の人の表現を認め、尊んで」生きる
17 「聞く」ことを大事にして」生きる
18 「立つ」ことを尊んで」生きる
19 「こだわらない」心境」で生きる
20 「いつも」いい顔」で」生きる
21 「より健康な体で」生きる
22 「すべての人と仲良くして」生きる
23 「明るく、楽しい」話」をしつつ」生きる
24 「一歩一歩、目の前のことからで」生きる
25 「後始末をつけて」生きる
26 「自分の責任を自覚して」生きる
27 「歴史短縮」を心掛けて」生きる
28 「困難や障害、事情を乗り越えて」生きる
-
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
- 180 172 166 158 152 144 138 132 126 120 114 108 102 94

29	「充実の『高齢者時代』を」生きる	186
30	「世と人に献げて」生きる	194
31	「精いっぱい表現の喜びに」生きる	200
32	「創意工夫しつづ」生きる	206
33	「表現のプロセスを喜んで」生きる	212
34	「何事も『喜び』に取りつづ」生きる	218
35	「『急ぎ心』を戒めて」生きる	224
36	「『つかず離れず』の境地で」生きる	232
37	「『言う』という人間表現の基本を」生きる	240
38	「念願、希望、目標をチェックして」生きる	248
39	「『真の自由』に」生きる	254
40	「人の幸せを祈りつづ」生きる	260

あとがき

268



「常に意欲に燃えて」生きる

今の世の中、暮らしにくくて、やる気^〆をそがれそうになることが多いです。——と言って片付けてしまうのは、いささか問題です。国や社会全体が一色に染まっているならともかく、今はいろいろな価値観や生活観が自由に展開されている世の中です。ですから、やる気^〆をそがれることも、やる気^〆をますます高め、強めることも自由ではありません。

現に、不況で意欲を喪失して落ち込んでいる企業があるかと思えば、不況なればこそと意欲を燃やして社業に取り組んで業績を上げている企業もあります。まさに現代的な様相と言えます。

* *

* *

* *

例えば、実際の年齢に似合わず若々しい人が時々いますが、その様子を観察すると、その人はいつも意欲旺盛で張り切って暮らしていることが分かります。多分、物事を気にかけて心配したり、ああでもないこうでもないどと気に病んだりせずに、進んで喜んで立ち向かっているのでしょう。仕事でも家事でも、何かをするときに、する気になって、せずにはおれないというわくわくした気持ちです、燃えて弾んで、そんな感じで取り組んでいるからだと思います。

もともと人間には、何かを見たい、聞きたい、言いたい、思いたい、したいという表現欲が与えられています。それは神様から与えられた本能の一つと言ってもよいでしょう。この表現欲を基盤にして、自分が当

面している物事を積極的に具体的に成し遂げようという気持ち、それが意欲という心の働きなのです。

PL 処世訓には「人生は芸術である」（第一条）、「人の一生は自己表現である」（第二条）と、人生の根本義が示されています。芸術家が、こんな絵を描きたい、こんな音楽を作りたいなどと、意欲を燃やして自分のイメージするところを芸術作品に造形しているように、私たちお互いもまた、日常生活の中でこう生きたい、こんな人生でありたいという自分のイメージを、仕事や家事などの上に意欲を燃やして実現していく、自分の人生」という独特の芸術作品を造形していくのです。毎日そういう気持ちで暮らそうと、意欲を燃やし続けて努力を積み重ねていくところに、生きている喜びを実感でき、充実した人生が開けてくるのです。

* * *

* * *

* * *

もつとも、意欲に燃えて暮らすということは、実際はなかなか容易なことではないかもしれません。そこで、PLの教えの中から、ヒントとも言えることを幾つか挙げておくことにします。

。思ったこと、気付いたことは直ちに表現して、実行に移すこと。表現しただけ、実行しただけ楽しくなり、さらに心が燃えてくる
。したいと思ったことの意義や目的をはっきりと知り、それを実現するためのタイミングや手段、方法など、事を進めていく上でのポイントをつかんでおくこと

。したいと思ったことに、大わらわになる。命じられたことや、しな

くてはならないと決まっていることでも、自分の仕事として自ら発動すること

。創意し工夫を凝らすこと。今の仕事の上に新局面を切り開いていこうと、方法的にも内容的にも常に新しくあるための心配りを大切にする
こと

。前向きに受け止めること。困難や難題に直面して気後れがしたりする
ときには、「このことがきつとよいことになる」と受け止めて、取り
組んでいくこと

——などが挙げられますが、さらに強調しておきたいことは、「自分の人生に対する希望、目的、感謝、念願などをより高く、より大きく持つこと」です。そうあることによって、「この程度では満足できない。